

多くの病人をいやす

マルコによる福音 1:29-39

すぐに、一行は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒であった。シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速、彼女のことをイエスに話した。イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪霊に取りつかれた者を皆、イエスのもとに連れて来た。町中の人々が、戸口に集まった。イエスは、いろいろな病気にかかっている大勢の人たちをいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にものを言うことをお許しにならなかった。悪霊はイエスを知っていたからである。

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。シモンとその仲間がイエスの後を追い、見つけると、「みんなが捜しています」と言った。イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

説教

シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速、彼女のことをイエスに話した。イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。マルコ 1：30-31

イエスは病気の人に触れてその人をいやすイエスは文字通り「手当」をおこしました。この出来事のあと村の人々は悪霊憑き、病人をつれていきイエスに「手当」してもらいます。シモンのしゅうとめのエピソードはルカ福音書(4：38-39)にもありますがそこではイエスは「枕もとに立って熱を叱りつけられる」と伝えます。マルコはことばのイエス(悪霊をしかりつけるイエス)ではなく行動するイエス(病人の手を取るイエス)を伝えています。

もし、わたしがシモンの姑だったとして、さらに仮定を重ねて、わたしがコロナウイルスに感染して熱にうなされていたとするならば、手を取るだけで熱が下がるより、枕もとでコロナよ出ていけ、と口づけるイエスのほうがありがたく感じてしまうかもしれません。どちらにしても治ればいいのですが、みなさんの好みは手を取るほうですか、叱るほうですか？

さて、マルコによればイエスの活動は「宣教し、悪霊を追い出す」というものでした。

ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。マルコ 1 : 39

ところで「宣教する」と訳されたギリシア語の「ケリュツソー」は、「告げる、のべ伝える」という意味です。何をのべ伝えるかといえば、マルコ 1 章 14-15 節にあった「神の福音」、すなわち「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」ということ（これはマルコ福音でのイエスの第一声でもあります）になります。ところで「信じなさい」というその福音の内容とは何か？ マルコ福音書はまだ始まったばかりなので、読み進めていけばその内容が書いてあるかといいますと、書いてありません。ほかのどの福音書にも福音とはこれこれこれである、と明確に定義する箇所はありません。

キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。一コリ 15:3b-5

パウロが簡潔にまとめ、またわたしたちが信条としている福音の内容とはこれです。福音がイエスが十字架で死んで復活することだとすると、その内容の福音を「生きているイエス」が自分で宣教することはできません。それはとても一言で言い表せるものでなく、書き表すこともできません。ヨハネ福音書はこのよう締めくくられます。

イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。ヨハネ

21:25

わたしたちはヨハネのことばに習うなら、ふつうの意味合いでイエス物語を読むことも聞くこともできないでしょう。一人で聖書を読む、みことばに耳を傾けることを軽んじるわけではありませんが、わたしたちが主日に集まって、集められて、信じる者として、みことばを聞くこと、それが主イエスが宣べつたえた福音です。
